



ゆみこの日記

—2025 原発のない福島を！— 県民大集会に参加しました



3月15日（土）、パルセ飯坂にて「2025 原発のない福島を！県民大集会」が開催されました。

東日本大震災・福島第一原発事故から14年となる今なお避難者の方々の生活環境は厳しく、人権が脅かされている一方で、国は原発事故がなかったかのように、原発再稼働をはじめとする原発推進政策へと大きく舵を切っています。

福島の「教訓」を再認識し、どう生かしていくのかを考えながら、こうした悲劇が再び繰り返されることのないよう、福島から声を上げ続けていこう！と確認し合いました。



核兵器廃絶！平和への誓い新たに — 憲法をいかす福島県民の会 —

2月11日（火・祝日）、本宮市で、「憲法をいかす福島県民の会総会」が開かれました。広島の原爆投下の悲惨さを描いた「はだしのゲン」を講談で38年間、語り継いできた活動が評価され、一般財団法人・澄和（とわ）の平和活動賞を受賞された、共同呼びかけ人のひとり、神田香織さん（講談師・いわき市出身）による記念講演と、「はだしのゲン」の一幕が上演されました。

みんなで盛り上がった 小倉寺「春の交流会」



3月8日（土）、小倉寺集会所にて開催された、千寿会・うたの会・女性部合同の「春の交流会」に参加しました。

特に、チーム対抗戦のゲームは、楽しく大いに盛り上がりました！！

市政にもっと女性の視点を！



2月18日（火）ふくしま市女性団体連絡協議会様との「福島市議会女性議員との懇談会」に出席し、参加者の皆さんと高齢者福祉の現状と課題や、駅東口周辺の諸問題について意見交換してきました。

三浦ゆみこと歩む会



ぜひ、歩む会の
会員になって下さい

〒960-8142
福島市小倉寺字町畑 13
TEL / FAX : (024) 563-1539
E-mail : miura.yumiko5.27@gmail.com

社民党・福島市議会議員



三浦ゆみこと歩む会



AYUMU KAI News Letter No.7

2025年4月

心機一転！新たな議場で

3月1日、市役所西側に新たに建設された複合棟の5階の新議場において、開場式が行われました。

3日には、移転後、初めての定例会議が開かれ、複合棟建設に携われた元議員の皆さまなど、多数の方々も傍聴にいられました。

私も、このような素晴らしい環境の中で議員として活動できることに感謝し、今後とも市民のための市政を求め、いっそう努力していく決意です。



冒頭、手話でごあいさつ：
「お疲れさまです！三浦由美子です。社民党の立場から質問させていただきます」

3月11日、午後2時46分

東日本大震災から14回目の3月11日、定例会議は午後2時40分に招集され、議場にいる全ての人が黙祷を捧げました。

震災の記憶とともに、福島における原発事故を、「世界に向けた教訓」として今後も風化させることなく語り継ぎ、「安心・安全な福島」を世界に発信していくことが大切だと思います。

一人ひとりが輝く 真の共生社会をめざして

3月定例会議で令和7年度の市の方針について質疑が行われました。

この中で、福島駅東口再開発事業について、物価高騰や人口減少、財政負担の今後の見通しなどの問題点を駅東口周辺の諸課題と併せて質問し、誰もが利用しやすい公共スペースの環境づくりを求めました。

また、地域包括支援センターの役割や、訪問介護の深刻な状況についての市の考えを質すとともに、健康者も障がい者もともに安心して参加できる「ふくしまシティハーフマラソン」のあり方を通し、共生社会についての市の考え方を改めて確認しました。

今回、私の一般質問に多くの聴覚障がい者の方々が訪れて、手話通訳者を介して傍聴して下さいました。このようなことは、福島市議会では今までなかったことです。

誰ひとり取り残されることのない真の共生社会に向けて、今後とも広く情報発信につとめ、皆さんの声を丁寧に市政につないでいきたいと思っています。

三浦由美子

3月議会で一般質問に立ちました — 裏面にダイジェスト版を掲載しています

誰ひとり取り残されない、人に優しい市政を求めて

3月定例会議

ゆみこの視点

■ 質問項目 ■

【一般質問】

- 1 福島市の財政の現状と将来の見通しを見据えた運営について
- 2 福島駅周辺の快適な在り方について
- 3 地域包括支援センターの役割の明確化と機能強化の課題について
- 4 訪問介護事業の現状と課題について
- 5 ふくしまシティハーフマラソン 2025 について

きめ細やかな介護をめざして

— 高齢者を支える地域体制の充実を —

2024 年 12 月定例会議で可決された「福島市地域包括支援センターの職員及び運営に関する基準を定める条例」により、専従かつ常勤としてきた専門職員の『柔軟な』配置を可能としたことで、非常勤職員に置き換えられる懸念があることから、施行に伴う地域包括支援センターへの影響と「質の担保」についての市の考え方を質しました。



これに対し、健康福祉部長より「条例の定める『常勤換算法による非常勤職員の配置』は常勤職員の確保が困難な場合などに特例的に認めるものであり、まだ適用の事例がなく、現時点で地域包括センターへの影響があるとは考えていない」、「質の担保については、常勤換算法により 1 人の常勤で対応するところを 2 人以上での対応になるため、職員間の連携を高めることが重要になる」との答弁がありました。

居宅介護の「いのち綱」、訪問介護を守るために

相次ぐ訪問介護事業の休廃業の大きな原因は「介護報酬の引き下げ」と「なり手不足」の 2 点であることから、市として国に対し、介護報酬の引き上げを求めることと、訪問介護の現場の課題を明らかにする取り組みを求めました。

これに対し健康福祉部長より「全国市長会等を通じて国に介護報酬引き上げを要望していくとともに支援制度の周知をはじめ、現状の把握に努める」等、答弁がありました。

ふくしまシティハーフマラソン 2025

共生社会をめざす一歩に

ふくしまシティハーフマラソンについて、昨年の 6 月定例会議で「次年度開催に向け、申込み時点で障がい者の程度の詳細な状況把握に努めながら必要な対応を準備していきたい」と答弁があったにも関わらず、今年も全く把握していない件について質問しました。

市民・文化スポーツ部長より「多くの聴覚障がい者が申し込んでも手話通訳者の配置や手持ち看板で十分対応できる」と答弁がありました。しかし、そうした対処の問題だけでなく、「健常者も障がい者とともに楽しむ」という企画も呼びかけもなく、共生社会をめざすという市の方針が全く活かされていないことに疑問と不満が残りました。

▶ふくしまシティハーフマラソンについて、昨年の 3 月定例会議で「年齢や障がいの有無、性別や国籍に関係なく、スポーツへの参画機会の創出を基本に取り組んできた」との答弁を頂いて以降、誰もが安心して参加できるよう合理的配慮を求め続けてきました。

しかしながら、今回も申し込み段階での「障がい者の人数把握」も行われておらず、大会概要等のどこにも、何の説明もありません。本市の言う「パラスポーツの振興や共生社会の実現を推進している」とはとても言えない状況です。

障がい者の方々が参加することを事前に把握することで、サポート体制の充実を含め、健常者も障がい者ともにスポーツを楽しめる大会づくりに活かしていけるのではないのでしょうか。看板や手話通訳者の準備等の対応策については十分努力されていると思いますが、今回、根本的な大会の考え方について、市当局と私の捉え方に大きなズレを感じました。

今回の答弁について、関係団体の方々からも“残念だった”との声が多く聞かれました。改めて「共生社会」についての理解を深め、市の取り組みにつなげていく必要があると思います。

▶12 月定例会議で制定された「地域包括支援センターの職員及び運営に関する基準を定める条例」に関して、人手不足から“全員非常勤”ということにはならないか？との問いに対し“本市独自の条件を定めているので問題ない”との答弁がありました。私が危惧している「質の担保」についての認識は薄いように思えてなりません。

また、訪問介護は居宅介護の“いのち綱”であることから、介護現場の状況について質問し、「令和 7 年度も市内すべての訪問介護事業者にアンケート調査を実施し、諸課題についての現状把握と、さらに訪問介護事業者へのヒアリングを実施する」との回答がありました。

介護する人のやりがいと介護される人の安心を基本に据えた制度設計が求められていると思います。

調査やヒアリングが形式だけで終わらないよう、ぜひとも対策を講じて頂きたいと思います。

「県都の顔」で市民サービスが低下しないよう要望

2025 年度予算案の審議に関連し、福島駅東口再開発事業について、当初の計画より市の財政負担がさらに 20 億～30 億円程度増加すること、維持費が年間 7 億～8 億円と想定される中、最終的に総事業費はいくらになるのか、今後の市民サービスにどう影響するのか、市の財政の現状と将来の見通しと併せて質問しました。

福島駅東口再開発事業の総事業費については都市政策部長より、「基本設計が終了していない中での概算だが、C 案であれば 580 億～620 億円、市の施設取得費は 270 億～300 億円程度と見込んでいる」との答弁がありました。

また、市民サービスへの影響については、木幡市長より、「東口再開発事業における公共エリアは県都として必須の施設であり、にぎわいを作ることでの経済効果、さらには多くの方が利用することにより市民サービスを支える税収確保も期待できる」との認識が示されるとともに、「大きな財政負担で市民サービスの低下を招かないよう全体的な財政マネジメントに努める」との答弁がありました。

市の財政状況については、財務部長より「人口減少傾向にあるが、大きく影響を与える状況にはない」との答弁がありました。



東口に誕生予定の複合施設「C 案」完成予定図

傍聴して下さった皆さん、ありがとうございます！



安全・安心・快適な駅東口を求めて

「駅東口の一般車降車場が混雑して困る」、「休憩スペースが少ない」、「タクシー乗車場の段差が高くて乗り降りしにくい」との市民からの要望があり、改善を求めました。

これに対し都市政策部長より、一般車降車場については「駐車場に向かう車と一時的な降車場に向かう車を速やかに誘導できるようわかりやすい案内表示を検討する」、休憩スペースについては「まちなかの再生を議論していく中で集客施設と併せて居心地が良い空間が創出できるよう検討していく」、タクシー乗車場については「バリアフリー推進協議会で、利用者目線で検証し、必要があれば広場内のバリアフリーを進める」との答弁がありました。